

クラスター	病理・病態系クラスター			
授業科目名	分子病理学・実習			
担当者名	責任者	大森 泰文	分担者	廣嶋 優子, 鈴木 麻弥
単位数	1単位(選択)		配当年次	1, 2年次
授業形態	実験実習		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			

授業の概要・到達目標

授業の目的: 体細胞遺伝子変異によって生じる「がん」における, 既知のドライバー変異の検出方法を学び実践することを目的とする。

授業の到達目標: ホルマリン固定パラフィン包埋組織片からDNAもしくはRNAを抽出し, PCR/RT-PCR増幅後のDNA断片の塩基配列を決定する手法を身に着けることを目標とする。

授業の概要: 1か月程度の期間において, 計45時間の断続的な作業になる。プログラムは受講者ごとの都合に合わせて作成する。

- 1.2. 既知のドライバー変異を検出するためのプライマーの設計
- 3.4. ホルマリン固定パラフィン包埋組織片からの核酸抽出
- 5.6. PCRもしくはRT-PCRの施行
- 7.8. DNA断片の精製
- 9.10. 塩基配列の決定

授業計画

	講義 (講義内容)	題目 (内容)	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1	既知のドライバー変異を検出するためのプライマーの設計		大森 泰文 廣嶋 優子 鈴木 麻弥	分子病態学・ 腫瘍病態学 〔講座研究室〕
2				
3	ホルマリン固定パラフィン包埋組織片からの核酸抽出			
4				
5	PCRもしくはRT-PCRの施行			
6				
7	DNA断片の精製			
8				
9	塩基配列の決定			
10				

授業形態および成績の評価方法・基準

研究室での実習30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と口頭試問の結果, 提出したレポートの内容を考慮して行う。

問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)

大森 泰文, yasu@med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じません。

教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。

自学自習における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。